

木像まっ黒焦げ

方広寺 出火は大仏殿正面

【京都】二十七日深夜、京都市東山区大和路通正面東入ル、方広寺Ⅱ本下寂復住職(三〇)の**大仏殿**が全焼した火事の現場検証は、二十八日午前九時半から京都市消防局、京都府警鑑識課、松原署合同で行なわれ、本下住職の話や燃え方などから火は大仏殿正面(南側)付近から出たものらしく、さらに現場を掘返して詳しい出火原因について調べている。

大仏殿は南側が大きく焼け落ち、方だつた。ち、安置されている木像大仏(半身像、未指定)も真っ黒に焦げ、大きな鼻が残るだけでほとんど輪郭もわからないほどのひどい燃え花弁などがあつたが、いずれも運

び出せず焼失した。現場には付近の人たちが集まり、検証を見守っていた。**未指定も防火設備を**京都市消防局の石川巴吉局長は

二十八日朝、記者会見で「京都には国宝、重文以外に未指定の貴重

な文化財が三百二十一点あるが、国宝、重文クラスの防火設備充実に追われ、方広寺などは火災感知器、ドレンチャイムなどの設備はない。今後は未指定クラスの文化財に早く防火設備をつけるよう行政指導したい。また文化財の放火事件を防ぐため、早急に警察と話し合い、文化財パトロール態勢をつくらたい」と語った。



住職らが見守る中で焼けた方広寺大仏殿を現場検証(けさ11時写す)